

令和4年度 第4回飛騨市総合政策審議会 議事録

- 【日時】 令和5年3月27日（月） 13時00分～16時30分
- 【場所】 飛騨市役所 西庁舎3階 大会議室
- 【出席委員】 18名中 10名
- 【執行部等】 都竹市長 湯之下副市長 沖畑教育長 齋藤会計管理者 谷尻総務部長
藤井市民福祉部長 横山環境水道部長 野村農林部長 畑上商工観光部長
森基盤整備部長 中畑消防長 佐藤病院事務局長 野村教育委員会事務局長
大庭河合振興事務所長 平田宮川振興事務所長 三井神岡振興事務所長
高見危機管理監 上畑財政課長（17名）
- 【事務局】 森田企画部長 田中総合政策課長 土田課長補佐 井口主査 上手主任（5名）
- 【傍聴者】 1名
- 【会次第】
1. 開会
 2. 委嘱状交付
 3. 市長挨拶
 4. 会長挨拶
 5. 協議事項
 - ① 令和5年度当初予算の概要について …… 資料①
 - ② 令和5年度当初予算の編成検討資料について …… 資料②
 - ③ 防災行政無線デジタル化事業について …… 資料③
 - ④ 自由討議
 6. その他
 - ・ 防災ガイドブックについて
 - ・ 市政世論調査の結果について
 - ・ 来年度の審議会について
 7. 閉会

【議事内容】

1. 開会【森田企画部長】

令和4年度第4回目の飛騨市総合政策審議会を開催する。

本日は8名がご都合により欠席であるが、委員18名中過半数の出席により、飛騨市総合政策審議会設置条例第6条の規定により定足数に達していることを報告する。

2. 委嘱状交付

【森田企画部長】 今回は、A様と、B様の2名に新たに委員として就任をいただく。本来であれば市長から直接交付をさせていただくことが本意ではあるが、時間の関係上机上配布を

もって交付とさせていただきます。また、委員の交代により、会長職務代理についても交代となる。飛騨市総合政策審議会設置条例第5条の規定により、会長職務代理は会長の指名によることとなる。

【会長】 A委員を指名する。よろしくお願い申し上げます。

3. 市長挨拶【都竹市長】

今年度最後となる第4回総合政策審議会にお集まりをいただき感謝申し上げます。

年に4回開催する総合政策審議会だが、4回それぞれで位置づけがなされており、今回の総合政策審議会は、議会の審議を終えて確定した予算をご覧いただき、ご意見を賜ることが主な趣旨となる。

この後予算の説明に入っていくが、物価高騰や電気料の高騰による圧迫がかなり大きく、この状況の中でどのようにして財源を確保するかということが今回の大きなテーマとなった。

財源が無ければ事業や政策を減らさざるを得ないが、今回そこまで減らさずに済んだ理由は2つある。

1つは、これまで借金を減らす取り組みを非常に長い間続けてきた結果、借金を減らすための額が減少してきており、その分財政的に少し余裕がでてきたことによるもの。もう1つは、ふるさと納税を増やす取り組みをしてきたことで、財源をある程度確保できていたことによるもの。この2つの事象により、負担が大きい中でも政策的にある程度充実したものが出来上がったと思っている

今回の予算の大きなテーマは「持続可能な飛騨市」。今のこの時代において持続可能というテーマで物事を考えるということは非常に良かったと思っている。持続可能というテーマで考えていくと、既存の政策でも新しい切り口があるということに気づかされ、今後の市政として持続可能は大きなテーマとなっていくと感じた。

岸田内閣においても異次元の少子化対策ということを言っているが、出生数の減少が顕著であり、このままだと人手不足が更に加速することは容易に想像できる。飛騨市内においては、早くから人口減少が顕現しており、働き手不足によりかなり高齢の方も働いているという状況となっている。そのかなり高齢の方にも限界まで働いていただいてもなお人手不足という難しい局面であり、今回の予算はそれが顕著に出たと思っている。人口減少、人手不足が更に加速していくことが予想される中で、今回の持続可能というテーマは、将来を占うような位置づけになったと感じている。

いずれにしても、この政策立案においては委員の皆様から多くのご意見をいただき、その意見を1つ1つ丁寧に対応させていただいたつもりである。いただいた意見全て実現することはできなかったが、1つずつ丁寧に議論した結果であり、そこはお汲み取りいただき、新しい視点で今回ご覧になって今後につながる有益なご意見を賜りたく思う。実りあるご議論をどうかよろしくお願い申し上げます。

4. 会長挨拶【会長】

年度末のご多忙な時期にお集まりいただき感謝申し上げます。

本日は、議会で通った来年度事業について皆さんにご説明させていただくことになる。すべてが上手くいくとは限らないため、皆さんが現場で感じたことなどは今後も積極的にお話いただきたい。

前回の総合政策審議会が終わった後、種蔵村との関わりで月に2回ほど飛騨市に来ている。種蔵の方

と話しているときも本当はこれがやりたいけれど、もうそんな体力がないという話を聞く。

種蔵村としてできること、地域外の人をお願いしてやってもらうことを村会議という形で意見交換し、課題を共有することで見えてくる方向性もあったり、これをやってみたりするのはどうだ、という面白いアイデアも出てきた。これからも楽しみながら地域づくりを考えていきたい。

関係人口絡みでは、現在オーナー制でみょうが畑の貸し出しをしており、最近は個人ではなく企業単位で借りたいという法人もいて非常に嬉しく思った。関係人口の創出についても、個人だけでなく関係人口法人のような形になるのは他ではなかなか無いことであり、こういった方向性が何かのきっかけになればと思っている。

来年度に向けてまだまだ課題は多いが、それでも楽しみが先にある中で、皆さんからぜひ忌憚のないご意見をいただけたらと思う。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

5. 協議事項

司会【会長】

【会長】 協議事項①令和5年度当初予算の概要および②令和5年度当初予算の編成検討資料について、事務局から説明を求める。

【土田補佐】 (説明)

【会長】 協議事項①、②について、ご意見ご質問をいただきたい。

【土田補佐】 説明をしておらず申し訳ないが、資料①-2・資料①-3については、先ほどの説明にあった「予算のポイント」をさらに細かく細分化した事業の説明になっている。参考までご覧いただければと思う。

【会長】 協議事項③防災行政無線のデジタル化事業について、事務局から説明を求める。

【谷尻部長】 (説明)

【高見管理監】 (説明)

【会長】 協議事項③について、ご意見ご質問をいただきたい。

～ 休憩 ～

【会長】 会議を再開し、ここで委員の皆様から市に取り組んでほしい分野、事業、課題、市に足りていない部分など、普段の生活でお困りのことも含め、会の代表のお立場や個人のご意見を1人ずつ頂戴したい。

【C委員】 資料を拝見して、細部に渡るまで本当によく考えられている印象を持った。この点に関して敬意を申し上げたい。

商工会議所の立場として、3点ほどの要望と取り組んでいただきたいということがある。まず1点目は、直面している経営上の問題として、どこの地域でもみられる

が、高齢化が進んでいるにもかかわらず、事業承継がなかなかされないという非常に難しい問題がある。最近では店じまいをする事業者も少し目につき、会議所もどうか人手不足を補おうと、高山のハローワークの方に飛騨市へ来ていただいて、神岡でのハローワークの開催等をしている状況。今までも本件について協力はいただいているが、今後さらにご支援をいただきたく思う。また、人手不足解消の一つの手として、東京有楽町にあるふるさと回帰支援センターにいる岐阜県の担当者の方は、地元の人と同じくらい飛騨市のことを知っており、そういった方を通じて人手の確保につなげていけたらよいと思っている。可能であれば夏頃をめどに、一度神岡あるいは飛騨市でご講演いただきたく考えているため、その際は是非ご協力ご支援いただきたく思う。

2点目については、輸出業者に限られる話であるが、先ほどの資料の中にもあった原産地証明のこと。以前からご承知の通りかと思うが、原産地証明を出せるのは商工会議所であるため、今後もし原産地証明を出すということがあれば大いに会議所を活用していただきたい。

3点目は、将来を見据えた話となるが、来年上期から新型紙幣が発行されると聞いており、それにあたり両替機と券売機の入れ替えが必要となってくる。機械の入れ替えは大きな負担となるため、市としてご支援いただきたく思う。

また、先ほどの資料の中にもあったが、飲食をする時にQRコードでメニューを読み込んだらどうだ、という話を以前したことがある。これについて調査を続けていくと、客の数がそこまで多くないからと言われて断られる場合がほとんどで、提案したものなかなか普及しないのではという懸念もある。しかしながら、今後ハイパーカミオカンデの研究者等が飛騨に来ることを考えれば、当然キャッシュレス化を考えていく必要はあると思うため、この部分については徐々に、普及・一般化を目指す考えで動きたい。市としてもご支援ご協力をいただきたく思う。

また、今までの意見とは別に、1点提案がある。提案というのは、自動車安全運転センターから発行されているSDカードについて、加盟店でSDカードを見せると割引を受けられる優遇制度があるが、割引部分はお店側が負担しなければならず、飛騨市では3軒しか加盟していないのが現状である。昨年、飛騨署管内では2名が交通事故で亡くなられて、一昨年は1名が交通事故で亡くなられている。先般のSDカードを使えるお店が増えることにより、交通実行を未然に防ぐというよりも、安全運転の意識を向上させるという意味に結び付ける1つの切り口となるのではないかと思うので、今後話題に上げていただけるとありがたい。

【D委員】

前回の審議会を欠席したため、2回分申し上げる。

飛騨市観光協会が予定している新しい3つの計画と、課題となる公共交通と宿泊の不足の2点に加え、それに付随する意見を3点ほど意見を申し上げたい。

新型コロナウイルス感染症が収まり、人的な行動制限がなくなってきたこともあり、

今年も観光協会でも観光復活元年と位置付け、誘客拡大の正念場と考えているところである。そこで、事業を3つほど実施する予定である。1つ目は、まつり広場周辺の機能検討について、ゴールデンウィークや夏休み期間、秋のシルバーウィーク、きつね火まつりの際にお祭りマルシェの開催を計画している。観光客はもとより地元市民に喜ばれるように、特産委員会を始め、協会内の事業者にも新規出店できるよう誘導し、本格的に地元経済の活性化を図りたい。これからは、ただコロナ前のスタイルに回帰することなく、昨年秋に神岡で開催されたオクトーバーフェスタなど、地域事業の魅力が向上するように各町の活性化に何が 필요한のか、どうすれば市民・観光客に喜んでもらえるかを、ゼロベースからシンプルに再構築していきたい。2つ目は、地域資源を生かした誘客事業として、6月に協会主催の交流サッカー大会を予定している。現在、高山市の大八グラウンドが芝生に整備されるため、長年黒内・杉崎グラウンドを利用している顧客チームの離反防止と市内への宿泊促進の維持を図ることができればと考えている。先日、JAひだ様からの協賛もいただけることになったため、サッカー大会の名前は「激ウマ・飛騨のコシヒカリ満喫カップ」と銘打って、飛騨コシヒカリのおにぎり食べ放題を実施し、飛騨のお米のPRとまつり会館をはじめとした市内観光施設の誘導や特産PRの絶好の機会と捉え、誘客拡大を図りたいと考えている。3つ目は、飛騨市にある三つの酒蔵を舞台とした地酒ツーリズムとして、観光閑散期の11月から3月にかけて「飛騨酒蔵・三蔵参り」を飛騨青年会議所と一緒に計画している。現在は企画段階だが、ブレンド酒の開発、スイーツ商品開発をはじめ、夜の飲食店活性化に誘導できるように、ちょい呑みプランなどを飲食店組合にお願いし、神岡・古川の夜を活性化していきたいと考えている。観光協会単独では出力が不足しているため、飛騨市はもとより神岡商工会議所、古川町商工会にもご指導いただけるとありがたい。

課題および私どもで考えていることについてだが、JR高山線に新型特急が導入され、飛騨市への流入も加速されることを期待している。観光面としては、飛騨古川駅を起点として、神岡方面への二次交通も整備していくことが必要になってくると考えている。公共交通機関は市民の利用が優先されると思うが、観光客の利用も考慮していただき、高山市の循環バスやさるぼぼバスの事例を参考に、コミュニティバスと濃飛バスとの連携を再度考えていければと思う。2つ目は、先日、旅館組合の会合でお話をさせていただいた件で、経営者の高齢化と後継者不足で市内の宿泊供給が非常に追いついていないように思える。先ほど計画しているとお伝えしたサッカー交流大会でも、市内宿泊施設に加えて数河・流葉でも対応できないかと危惧している。外貨獲得の意味でも、現在の宿泊施設が魅力ある施設としてグレードアップし、食の面でも飛騨ならではのおもてなしができるように努力されることを期待している。観光協会としては、事業者と一緒に知恵を出し合い考え、また、飛騨市のご支援をお願いしたいと思っている。よろしくようお願い申し上げます。

おまけの3つの意見について、1つ目が、杉崎グラウンドのこと。子どもたちがサ

サッカーの大会をよくやっているようで、グラウンドの上の堤防で親御さんが応援していて、応援が終わったらグラウンドに降りていくのを見かけるが、降りていくための階段がないのでけがをしないか不安に思う。ちょっとした階段でも取り付けていただければ、年配の方でも簡単に堤防の行き来ができるようになるため、ご検討いただきたく思う。2つ目は、子どもに非常に人気のある「ポケットモンスター」の柄をしたマンホールについて。任天堂に申請すれば無償でポケットモンスターの柄のマンホールが手に入るため、このマンホールで町の誘客につながることもあると思われることから、申請を検討してみたいかと思う。3つ目は、水道の配管について、壺之町界隈やまつり会館を周辺とした地域では、冬に3軒ほど水道料金が高くなっているという話を聞いた。おそらく水道管が破裂して水道料金が高くなっているというケースがみられてきており、もしかしたら、都竹市長の家も余分に水道料金払っているかもしれないため、一度区内の方に「水道料金は大丈夫ですか」という注意喚起をしていただいた方が良いのではと思っている。

【E委員】 まず、農産物の単価について、ここ30年ほど農産物の単価は、横ばい、あるいは下がっているという状況。その代わりに経費、人件費、各生産資材、運賃も含めた経費はかなり上がっている中で、今、農業をしている方は、そのような中で利益が圧迫されているということで大変苦慮しているため、様々な点で話し合いを密にしながら、支援策を考えていただきたく思う。また、黒内のサッカーグラウンドや、トマト研修所、上野開田あたりの地域は、殿川の方からポンプアップをして水を運んでいる。そのポンプアップの機械もかなり老朽化しており、度々修理し修繕費がかさみ、今はかなりお金がない状況の中で電気代が高騰している。反あたり今は1,000円だが、今後は30%ほど電気料が上がるということで、反あたり1,300円に上げることも検討していかなければならない。農産物価格は下がっているのに電気代等経費は上がっており、負担がかなり大きく経営が厳しいため、電気料金についての助成も検討いただけるとありがたい。

また、農業分野だけではないが、各区からの要望事項について、どのように要望事項の優先順位を決定しているのかを教えてください。私たちからも、例えば水路が細くて、雨の度に乾かしたい時であっても、田んぼの中に水が入るといふようなところもあり、こういった部分の改善を区からの要望という形で出させてもらっている。だが、提出した要望はいつできるのか、何年先になるのか、今すぐやってもらえるのか、そういうことが少しわかりにくい。

【F委員】 先月、飛騨市学園構想の成果発表会があり、大変好評だった。学園構想については、校長や教頭・教務は十分関わっているものだったが、一般の先生方にも見通しを持ってもらえる非常によい成果発表会であった。

1つ目は、緊急時の連絡手段ということで、池ヶ原に無線がついた件について、これまで池ヶ原には何もなかったのが助かっている。感謝申し上げる。ただ、今後、

春、夏、秋と、観光客が多く訪れるため、ぜひ携帯の電波の方もつながるよう働きかけていただきたい。2つ目は、豊かな自然資源の保全について、予算的に難しいということだったが、ヤママップやモンベルなどのアウトドアメーカーとの提携ができるということで、非常に心強く感じている。富山県の折立は北アルプスの玄関口になっているが、神岡の山之村も北ノ俣に上がっていくことができるため、ぜひ提携を深めていただき、良い観光の目玉になることを期待している。

3つ目は、生きにくさ学びにくさを持った子どもたちへの支援の強化ということで、私も現職の時に様々な支援を受けさせていただいた。感謝申し上げる。特に、OT（作業療法士）による学校巡回は大変心強いと思っていた。また、特に不登校や不適応の児童生徒に対して学力の保障を提供しなければいけないところをスタディサポーターで取り組んでおり、加えてそこから社会性を身につける目的で大人ともかかわる機会を創出して、進路情報の提供もしっかりやっていてよいと思う。

個人的には、同世代文化の共有も大切だと思っており、子どもたちがもっともっと喜びや生きがいを感じられるように、もっと発展させたいと思った際に、例えば自然体験活動をもっと提供していくなど、検討材料でもよいので考えていただきたい。引きこもっているけど、何か一つのことについてよく知っていることが多く、本当に何かに長けていることが多い。子どもたちが面白いと思えるような企画を今後考えていただきたい。なかなか退職校長も忙しく、人材も捕まらない中で一つの提案としてあげれば、無償で使える乗鞍青少年の家で何かをすることを考えて、スクールバスだけ出すことにすれば極論だがバス代だけで済むと思う。他だと、夏休みに神岡に連れて行って水遊びをすとか、理科の先生に何か実験をしてもらおうとか、英語のALTを使うなどの取組が考えられる。また、今の子どもたちは、ゲームに詳しいとか、YouTubeが当たり前となっており、小6の文集を見させてもらいましたが、将来ゲームクリエイターになりたいという子が結構な数いて、僕らの頃ではあまり考えられないことだと思いつつも、これも確かな道であって、こういった分野の講師も呼んで、何か話聞く機会を作ることができれば、子どもたちのワクワク・ドキドキや自己肯定感、有用感、自己再発見に繋がるのではと考えているので検討いただきたく思う。

次に、資料132ページのスポーツに特化した学童保育の推進ということで、古川地区と神岡地区とで開催回数が違う点について、なぜ回数が違うのかをお聞かせ願いたい。次に、134ページの地元高校づくりの推進ということで、前回の総合政策審議会の最後に高木会長が仰っていたが、小中学校は連携しているので問題ないが、今後は高等学校との連携にもう少し力を入れて欲しいということを言われた。大正大学や静岡大学と連携している点は知っているが、地元の岐阜大学や富山大学については、先に挙げた大学より近くにあり、メリットもより多くあるのではないかと思うが、そこについてどのようにお考えなのかお聞かせ願いたい。

それから、現在は教育委員さんが4地区からそれぞれ1名出ている状況で、教育関

係者の方が委員になってみえる場合が多いが、これは規則により決まっているものなのか。今後は高等学校の元OBを何人か入れてみるというのも1つの手だと思っている。

最後は一市民としてのお願いごとである。私は18区民だが、家の前のアスファルトが車の通行によってかなり摩耗し、タイヤがよく踏む部分のアスファルトが減ってきた。要望を出したところ、区長を通してすぐに補修していただけてありがたかった。対応いただいたことに感謝しているが、融雪装置から出る水が、道路の真ん中に溜まってしまう状況となっている。水が流れてこないため、道路脇には雪が溜まり、車が通る度にびちゃびちゃと雪が跳ねてくる。こうなった要因は、業者との完成時の引き渡しがいまいちできていなかったからではないか。今後は気を付けていただきたくようお願い申し上げます。

【G委員】

審議会へ4回出させていただき、4回とも関心を持った空き家や住むとこネットなどについて質問等をさせていただいたところである。不動産の価格が変わった時にトップページでお知らせをしてほしいという要望も、もう早速していただき非常に見やすくなって、発言したことにすぐ対応いただき変化がみえるということに非常に感銘を受けた。全世界から見られるわけで、こういったことをブラッシュアップしていくってこと、現状が最高ではなく、時代に合わせて変えていかなきゃいけないということを切に思っている。

昔なら、空き家があれば隣の人が買った場合が多く、隣なら金額を倍出しても買えという時代もあり、例えば、賃貸で貸して、収入を得るなんてこともそういった時代であった。私たちは今、金融機関で相続というような形が非常に多く、現金・不動産を持って亡くなった方も多いが、やはり被相続人の方は、現金が欲しい、不動産はいらないということが現実となっている。不動産も持つことによって、固定資産税や、家屋の修繕、隣近所の付き合い、そういったことも全部発生してしまうので、こういったものをいかにこう改善するかだと思う。放っておけば空き家になり、老朽化により壊れてしまい、解体しなければいけなくなり、悪循環になってきている。飛騨市では、空き家を壊す際にも結構予算をつけて壊していると聞いているので、その前に何とか予算を使わせていただいてそこをまた生かせるような不動産にしていければと思っている。

そういった中で、59ページの空き家流動化の促進につきまして、これまで150万が上限だったものを300万に引き上げ、予算が600万に対して300万の補助を出すということで、最大2件分の活用しかできず、非常にこれは少ないと思った。上限額引き上げでインパクトがあるのは分かるが、どれぐらいの方が関心を持って賃貸するために修繕をするのかという部分もあるかと思うので、また補正予算で更に予算をつけていただくことを期待している。

とにかく資産価値を上げるためにはやっぱり賃貸収入、受け入れ体制を取るために

はやっぱり住む場所というのはどうしても必要なもので、そういったものからしっかり整えていくことが大切である。飛騨市に関して、住む場所がないというような現状や、最近の住むとこネットを見ても賃貸物件がどんどん制約されるので、物件がないという状況も承知しており、今、新しいシステムということで空き家の情報ということも、市の方でもしっかり捉えているということを知っている、ピンポイントで賃貸売却等を促していただきながら、我々金融機関としてできることは、リフォームに対して資金の提供ができるのではないかと思うので、とにかく飛騨市の住人の方を第一で、補助金もしっかりつけていただき、地域も限定してやっていくことによって、もう少し集約が可能なのではと思うので、協力してやっていきたいと思う。

【H委員】

3年間委員として審議会に参加し、いろいろと勉強することが多く、感謝申し上げます。特に大変なコロナ禍の中で参加していたので、市がどのように考えて、そして、どのように対応したということがリアルタイムで感じられ、市民の方とお話する時に、市はこのように手を打っているとか、子どもたちに話す時にすごく参考になった。

私も移住して6年目になり、最初の3年はまちづくりや地域の魅力を発掘することや、地域を再発見するという話で市役所の方と様々な活動をさせていただいた。そこからの3年がコロナ禍で、まちづくりができなくなってしまったが、その中でももちろん町は動いていて、今回の予算のポイントにあったまちづくりの部分、非常にたくさんの事業が実施されているが、まちづくり団体の活動に関してはやっぱりどうしても動けなくなったということがあった。今、やっとコロナが落ち着いてこれから動いていける雰囲気が見え始めたと感じている。

この3年ですごく大きく変わってしまった実感はあり、人と人の関わりの部分で、楽しい部分も面倒くさい部分も大変な部分も、色々な部分もあったと思う。この3年でその繋がりがちょっと薄くなって楽になったと感じている方も多少なりいるようで、まちづくりの動きがちょっと下がってきているような雰囲気が感じ取れた。それはそれでコロナ禍の中で皆さんがそれぞれ新しい楽しみ方や、時代に合った楽しみ方を見つけ、新しい関わり方やコミュニティを見つけた結果だと思う部分もあり、すべてを元に戻す必要はなく、新しい形に変わっていかなければいけないとは思っている。とはいえ、人と人の繋がりが、町の中にあるコミュニティが、前よりも1つ1つ小さくなっているように感じている。コミュニティ同士の繋がりが以前より少なくなっていると感じている。こういった部分は、各団体で頑張っていたら、楽しんでいただくことでもいいと思うが、コミュニティ同士の繋がりを作る部分は市などから「ちょっと一緒にやりませんか」という働きかけが必要な部分だと思う。ここからまた皆さんが少しずつ動き始めたところで、そういった支援があるとよりまちづくりが進むと感じている。

飛騨市が合併から20周年を迎えるということで、これはすごく大きなチャンスだと思っている。20周年に何をやるかよりも20周年にどうするかを市民で考え、一人でも多くの方に関わっていただき、1人1人に飛騨市に住んでいる市民として一瞬でも考えていただく。こういったことが非常に重要だと思っており、まちづくり活動に関して新しい動き・新しい形になるチャンスのタイミングで20周年を迎えられることはとてもいいことだと思っている。ぜひこちらからもお手伝いもさせていただきながら一緒に頑張りたいと思っているため、ぜひ市民にも伝えていくという姿勢で20周年を一緒に迎えられたらと思っている。

【I 委員】

先般行った防災リーダー養成講座には38名の受講者が集まった。市で取り持って開催させていただき、感謝を申し上げる。合否については、まだ把握はしていないが、ほとんどの方は合格だと思う。これに伴い会員数もそのまま増えてくるというような状況。

まず、2点ほど申し上げる。来年度予算で防災、それからアウトソーシングにて予算を計上していただき感謝を申し上げる。市が備蓄する防災備蓄品の定期点検の外部委託ということで、一部備品の中に不良品が出てきて、今までちょっと点検がおろそかになっていた分を予算化して防災士会に委託いただけるということで、また防災士会としても会員の皆さんに周知をして取り組んでいきたいと思う。

地域防災力の向上という点で、避難所運営の出動手当の支給ということも予算化していただいた。まずは防災士のスキルアップということが大切であるため、防災・避難所運営の研修を取り持って実施していきたいと思っている。危機管理課と相談しながら研修を計画していきたいと思う。

昨年11月に総会を開き、4月より各町に支部を置くという組織変更の了承をいただいた。各支部の支部長、副支部長、各支部会を開いて承認をいただいているが、その中で、この2点についても危機管理課の方から説明いただいて、会員の皆さんの了解を得ているので、これに応えられるようしっかり継続していきたい。

【J 委員】

新型コロナウイルス感染症は飛騨市においてもかなり減少していて、政府は連休明けから新型コロナウイルス感染症の位置付けとして2類相当から5類への変更ということを考えているが、高齢者及び基礎疾患のある者の重症化リスクは依然ある。医療介護を担当している私たちとしては、感染防止を常に日頃から心がけて対応しており、クラスター等を起こさないように注意しているが、起きた場合にはまたそれぞれ市の方の支援はよろしくお願ひしたいと思うので、引き続きお願ひ申し上げる。

本年の物価高騰、電気代の上昇等について、様々な支援していただいている。年度の予算でもその辺りは組み込んでいただいているが、現場では経費の増加ということが大変大きな問題となっている。医療介護は診療報酬・介護報酬ということで、決められた報酬しか入ってこない形であるため、自由価格というわけではなく、値上げはできない。今後も引き続き、ご支援をいただきたい。

最後に、学校の生活環境について、今後は感染症対策という意味でも換気の問題が入ってくると思われる。換気の方法について、換気扇をつけるなどいろいろあると思うが、そういう手段を講じていただきたいと思う。冷房化に関しても引き続きお願いをしたい。一方、暖房に関しては、古川中学校と西小のものがかなり古く、あまりよろしくないと思う。更新される機会があればその際に、と思うが気持ちとしてはそれよりも前に改善をしていただきたい。将来の飛騨市を担うお子さんを預かっているので、子どもたちが健康・安全に学校生活を送れるようよろしく願い申し上げます。

【K委員】

まずは、以前も述べたかと思うが、特に市街地の空洞化が非常に進んでいて、先ほどC委員の方からも話が出ていたように、事業承継ができなくなって廃業される店が非常に増えてきている。決定的な打開策をとというのは難しいが、何とかしなければいけない。私自身も中央の市街地で商売をやっているが、いかんせん大きな課題を克服しようと思うと、やはり行政や商工会議所、商工会等の連携がないと難しく、何とか打開策を打ち立てるような方策ができないか考えている。これは先ほど話があった空き家対策の関係もあるかと思うが、空き家対策・事業継承の問題を合わせて、市街地の空洞化を克服するような方策を今後より一層進めていただきたい。

次に、今ほどH委員の方からも出た意見だが、20周年の式典の事業について行政の方でも検討して、これからどうするか考えているかと思う。そこで自分自身も少し振り返ってみると、10周年の時に下させていただいた時は、諸先輩や市の行政に貢献された方々を表彰するということが主で、出ていてもあまり10周年の意義というのを感じなかった。そんなことを思い返すと、少し前にも話が出ていたように、これからこの地域を担う青少年で非常に各分野にわたって活躍している子どもたちや、それから地域で目立った公職じゃなくても、地道に奉仕活動をしている方などを表彰する形での実施なら、普段光が当たりにくい方を顕彰するような、そういう部門も組み入れてもらえるとありがたい。

いずれにしても飛騨市の予算は、緻密に各部署で相当時間かけて検討されたものであり、私たちのような素人が数日目を通しただけでは、なかなか十分理解できない部分もありましたし、また反面、非常にこれだけ市のために検討したことが非常によく理解できた。今後ともひとつ一生懸命頑張っていたいただきたいという激励の言葉を述べて私の意見とさせていただきます。

【A委員】

私は今、区長会長でもあり区長でもあるので、私の今関心としているところについて申し上げたい。いただいた資料の中にはたくさん補助制度があり、空き家に対する補助、太陽光発電の補助、あるいは電気自動車の補助、省エネ家電の補助、その他さまざまな補助事業があることを知った。これを見ると、まず、区長として自分のところの市民はどれが利用できるのだろうと考えた。回覧板を見ると、その都度単発で市ではこういう制度があります、こういう制度を作りました、と回覧されて

くるが、例えば、補助制度だけを抜き出して、市民の方にわかりやすく伝えることができる手段はないかと思う。または、地区からの要望を受け、興味のある補助制度のみ抜き出した資料を作成していただき、区内の役員会で配布し、自分も含めてどれか利用できるものがあるのではないかと関心を持ってもらうことができれば、制度の活用にもつながると思う。せっかく作っていただいた予算の中の補助制度ということだけスポットを当てた何か資料が欲しいと思う。

それともう1つ、私が今一番関心を持っているのは、組織やコミュニティの躍動感。ダイナミズムというか、湧き上がるような躍動感。これがこの3年に及ぶコロナ禍の中で、いろんな事業ができなかった、あるいは縮小をせざるをえなかったということで、躍動感が地域の中でなくなっているような感じを受けた。それを感じた理由は、今年度に入って、色々な事業が実施できるようになり、役員会でも今後の予定を決めるため、コロナが明けてこういうことが出来るようになったと説明をしていく機会があったが、思ったよりも周囲のノリが悪いように思えた。なぜそう感じたか考えてみると、役員というのは基本ボランティアで、コロナ禍により事業が中止になると、やはり動く必要が無いので楽に感じたのではないかと思う。それが3年も続くと、もうコロナ前のように、何かの準備をしなくてはという意識もなくなっているのだと感じた。自治会なので、あくまでこういう事業をやるという合意形成を得る必要があり、強制もできない活動で、やる気がないと言うことも嫌われ孤立するため言えない。そうになると、もう自分が率先して動いて、ついてきてくれる人だけでやる形になるかと思われる。特に要望などではなく、自分個人的意思としてそう動いていこうと思う。

【都竹市長】

C委員のお話にあった事業承継について、K委員からも同じお話があった。廃業される店は確かに多く、また、増えてきており、寂しいという声も色々な方から伺うことがある。現実問題として街を見ていて、お店が廃業するということは、10、20年前くらいから30年前には決まっていたというお店が相当の割合あるのではないかと私自身は思っている。私事だが、私の家は「つづくサイクルショップ」という自転車屋を営んでいたが、4年前に実父が逝去し廃業した。ただ、廃業するということ自体は、私と弟が就職した時点で決まっていたという背景がある。そういった意味では、廃業に至るまで20年から30年ほど猶予期間があったということになる。お店の廃業は、現在起こっている現象として見られがちだが、ほとんどの場合は20～30年の期間があったように思っている。そうになると、今あるお店について今後の見通しを丁寧に聞いていくということはやはり大切ではないか。つまり、今の猶予期間、おそらく何年後かに廃業するか、継続するかという話が出てくるのが予想される段階で、現在の状況をきちんと把握して、それぞれの事業は今後どうなっていくかということをそれぞれで考えてもらうということが必要ではないかと思う。そう考えると、廃業しそうなお店というよりは、およそ全部のお店で考えなければならぬと思うが、将来継続ができる可能性というものをしっかり調べて、何をやれ

るのか一つ一つ考えていくということになると思っている。これらを鑑みて、調査をしてみたらどうかと最近少し考えており、これまでお辞めになったお店について、なぜ辞められたのか、いつ辞める判断をされたのか、辞めるまでの間は何を思っていたのかを伺うため、アンケートやインタビューをしてみて、その中で得られたもので考えられることもあると思う。そういったことをちょっとやりながらですね、今後の見通しを。また、今あるお店についても、事業所等には今後の見通しを立てていただき、10年後この町の事業所がどうなっていくのかということを見据えながらですね、対策を考えて今後の見通しを立てるということをやりたいと考えている。取り組みとして特に予算を要するわけではないが、一つの課題として様々な場面で話を伺っているため、この部分については対応を考えたい。先程、ふるさと回帰センターの話があり、外部から事業継承して下さる方に来ていただくという意見をいただいた。確かに外部からということも大事だが、他方で起業ということについては、市としてかなり取り組んできており、飛騨市内では若い女性の起業が最近増えている状況。そのため、やはり今ある事業を引き継いで下さる方を探すというのも一案だが、時代に合った新しい事業や、やりたい事業を飛騨市でやれるように環境を整えるということも大事だと思っており、むしろ起業について今後さらに力を入れていきたいと思う。現在実施している取り組みについても、不足がないか先ほどの事業承継の調査アンケートの中で得られるものもあると思うので、そういった部分については改めて見直しをしていく事を考えていく。原産地証明の話については、市として大いに連携をさせていただきたいと思う。新紙幣については、今年上半期ということになるがあまり考えたことがなかったため、これについては早急に対応すべく、ご要望等をお聞きして、今のいろんな補助制度の中に要件を加えるなどして、活用できるものがあれば、活用あるいは要件を若干、今の予算内で要件を調整することで対応できるものがあれば、対応するというようなことで考えたいと思う。

SDカードの加盟店の話があったが、全く考えたことがなかった。それぞれの加盟事業所・店舗さんの負担で基本的には実施することではないかと思うが、交通安全という切り口も、お店との関わりという切り口でも何かできるかもしれないということとは考えられるため、検討させていただきたく思う。

D委員からのお話で、今、観光業界では祭りマルシェや協会主催の交流サッカー大会、三蔵まいりという非常に魅力的な企画を立てていただいて本当にありがたく思っている。感謝を申し上げる。まさしく、観光協会は観光プロモーション営業とまちづくりの機能の大きな二つの柱があるということを常に申し上げてきた。まちづくりの部分については、機能という部分に非常に期待しており、その点では、まさしく地域みんなが喜び、また、誇りの持てるイベントということに繋がると感じたのでぜひ大いに進めていただきたいと考えており、市も大いに協力をさせていただきたく思う。

公共交通のお話があったが、現在、名古屋大学と提携し、今年度から松原さんという研究員に来ていただいております、まずは神岡を中心に公共交通の見直しを積極的に進めている。例えば、JRとの連携では、猪谷を起点に猪谷からの神岡の公共交通バスと連携するという点についても、大きなテーマとして現実的にかなり検討が進んできている状況であり、近いうちに具体化もしてくれと思っている。濃飛等との連携についても、グーグルの検索で乗車場所と降車場所を入れるとバスの時刻がパッと出るような仕組みを入力し、既に実際に検索もできるようになっている。この辺りの使い勝手を見ながら、具体的に観光に来たお客様にバスの利用を紹介できるような活用の仕方を考えていくことを経て、先ほどご意見いただいたことについての大半は解決してくると想定でき、具体の運用についても令和5年度早速しっかり取り組んでいきたいと思っている。

市内の宿泊施設のお話があったが、これは非常に大きな問題だと思っており、そもそも泊まる場所がないという問題に直面していて、どのように宿泊施設を埋めるかではなく、泊まる場所がないから高山へ流出してしまうという、宿泊客をどのように市内で確保するのかということについて、私は大変大きな危機感も持っている。キャパシティを増やしていくことが考え方の方向性となるが、現存の宿泊施設に頑張ってもらって部分ももちろんあり、その中でオーバーキャパシティにならないよう宿泊施設を誘致するという点も有効であると考えており、関係者の方とそういった話はさせていただいている。先ほどの事業承継の話と似通った話で、廃業が見込まれるという宿も現実であり、そうするとキャパシティは減少していく一方となる。では、そういった状況の中でどうしていくのかという問題も、他方で働く人がいないという問題もある中で、労働集約型の宿泊施設や宿泊産業そのものにどれだけの人を割くことができるのかという問題も出てくる。その辺りは慎重に見極めながらとなるが、宿泊が全くできないということになると、そもそも観光が成り立たないことになってしまう。ただ、少なくとも現状は需要を満たせてないことが事実であり、ここについては大きな問題意識を持って引き続き考えていきたい。観光協会と連携し、旅館組合とも話をさせていただきたいと考えている。

杉崎グラウンドの堤防については、宮川の河川管理者は県となり、また、堤防はなかなか簡単に新たな構造物を作ることが出来ないため、階段を作してほしいという要望にどのくらい応えられるかは分からないものの、早速古川土木とこのことについて話をしたいと思う。

ポケモンマンホールの話について、とてもいい視点だと思う。富山ではポケモンマンホールが話題になっていたことを新聞か何かで見たことがあるが、市としてもどのようなことができるか、早速調査して検討したいと思っている。

それから水道管の話について、水道料金が急に高くなったりした際はチェックが可能であるため注意喚起をしている現状がある。のちほど具体的に環境水道部長からコメントする。

E委員からのお話で、農業の現状として、市場単価が上がってないのにコストだけ上がっていて利益を大きく圧迫しているということは私も認知しており、また、非常に大きな問題だと思っている。ただ、市場単価を上げていくという視点では、市場へ出す仕組み上、なかなか難しいように思える。他方で、市場単価が上がらなければ、苦しい状況におかれている農業者の皆さんの利益圧迫をそのまま見過ごすことになってしまう。この点については、現在、対症療法的に飼料・肥料などの費用助成により個々に手を打っている状態である。今回の物価高騰は、しばらくすると落ち着いてくると思うが、落ち着いた段階で、農業の価格のあり方について、国や県・JAともしっかり話をしていくべきだと思っており、長期的な視点で見ながら、他方で足元の必要な最小限のものについて、市も今までも独自に手を打ってきたものなど独自に対応できるものについては、よく検討していきたいと思っている。先ほどのポンプアップの電気代は今までの議論の中には出てきていなかったことだが、そうした細かい点についても、お話を伺いながら支援体制を考えていきたいと思っているのでよろしくお願い申し上げます。

区からの要望事項の優先順位の話があったが、これについては、比較的最近の区長会で改めて説明をした。おそらく区長会の後になかなか広がっていないと察するが、優先順位の決め方はかなり緻密なルールのもと点数化をし、順位をつけているもの。その中身がなかなか伝わっていないことと、個別に事情がありすぐに取り組むことが難しいとか、あるいは国の補助制度を探すとか、様々な回答差し上げているところ。この件については改めて、確認もしながら要望事項の優先順位をお伝えするという事に再度努めていきたいと思う。その上で、1つ1つご理解いただけるように、こういうものをベースに順位を決定しているということをお伝えしていきたいと思うので、よろしくお願い申し上げます。

F委員からのお話で、教育長の方からいくつかは話をするが、私からお答えできるものについて申し上げます。池ヶ原での通信電波について、池ヶ原は携帯の不通区域であり、電波が通るよう定期的にドコモ、au、ソフトバンクに要望している状況である。池ヶ原については、今まではどちらかという道沿いや国道沿い、あるいは人が住んでいるところに電波を、ということを中心にやってきた。池ヶ原に電波を通すことは、電気が奥まで行っていないため少し難しく、また、どこで中継アンテナを建てることができるか悩ましいということもあり、電波が通っていないという経緯がある。再度検討し、要望をしてどういう回答があるかということも含めて、携帯電話各社と協議をしていくよう方向性で考えていきたい。他にも電波関係で要望がいくつかあり、ここは通じにくい、ここを何とかして欲しいという要望は定期的に伝えているが、もう1回要望を洗い出す中で、池ヶ原についても検討していきたい。

北ノ俣について、自然資源の活用の中で大きな柱の一つとして当然位置付けているが、ご意見いただいた通り、中々手を入れることが難しい場所であり、費用も非常

にかかってくるため、まずはできるところから手をつけながら、お金を集める必要があると思っている。今、モンベルさんのふるさと納税は規模としてあまり大きくなく、モンベルさん経由のふるさと納税だけでなく、一般のふるさと納税や企業版ふるさと納税などで外部資金を集める方法を考えていきたい。北ノ俣の整備については、中部山岳国立公園の中で飛騨市が有している非常に貴重な部分であるため、問題意識としては十分持っており、引き続きどうしていくか考えるフェーズにあるのでしっかりと考えていきたい。不登校の子どもさんとスポーツ学童、教員、高校教員OBについては、後で教育長から回答することとする。

大学連携については、つながりのある先生がみえるので岐阜大学とはもちろん様々な連携が可能だが、大正大学と静岡大学と連携しているのは、どちらの大学にも飛騨市出身の学生がおり、その学生がぜひ飛騨市といろいろな連携をしたいということで活発に中心になって動いてくれて、色々な連携事業が進んできている。大学との連携の枠組みは色々な形があり、色々な大学との連携関係を作っているが、本格的に活発に行うとなると、中心となって全体を動かしてくれる人が内部に介在している必要があり、仕組みというよりはむしろ人の問題だと思っている。また、連携の仕方も大学によって少しずつ違い、大学ごとにカラーがあるので、今の大正大学や静岡大学モデルのようなものは、中心になってくださる方さえ確保できればすぐにでも取り組んでいるので、今後広げていきたいと考えている。近いところで考えていくと、例えば愛知大学や中部学院大学にも繋がりがあるので、どのように進めていけるのかをそれぞれの大学と話しながらやっていきたいと考えている。

ご自宅の前のアスファルトについては技術的な話となるので、後から森部長の方からコメントをしていただく。家の前のアスファルトが破損しているという話は意外と多く、私の家の近くもつい最近同じことがあった。応急的に直してもらえるが、破損したことによってどのような影響が出るかを確認しているのかという疑問もあるため、後程コメントしてもらいたいと思う。

G委員からのお話で、空き家について注目をしていただき大変ありがたい。空き家の賃貸改修の補助について、見ての通り大幅に補助上限を上げたが、予算自体を600万円に限っているわけではなく、需要があればそれに応じて補正で増額をしていくという方針でいるのでご理解いただきたい。空き家を改修することによって賃貸物件ができるという部分が結構大事だと思っており、空き家賃貸にするために、また、空き家賃貸にした後は何がどうなるのかということを知っていただく部分が大きいように最近思っている。私の親戚の物件も、空き家賃貸として考えたことがあったが、市に住んでいる私ですら、いざ自分事としてやろうと思うとお金を借りるにはどうしたらよいかとか、うまくペイできるのかとか、補助が入ることによってどうなるのかなど、実は私自身も分からなかった。私分からないことということは、要するに市民の方も分からないという認識なので、空き家賃貸に関するマニュアルを早急に整えて、今の改修補助を含めた呼びかけにつなげていきたいと考えている。

H委員からお話いただいた件について、H委員が移住されてもう6年も経ったのかと思いながらお話を伺っていた。確かにおっしゃるとおりコミュニティ同士の繋がりがコロナ禍を経て弱くなっている部分もあるかと思う。この辺りはnodeの役割も非常に期待されている部分なので、引き続きお願い申し上げる。

20周年の話について、先ほどK委員からもお話があったが、何をするというよりは、どのようにやっていくか考えるプロセスの方が大事だと考えている。多くの人に関わっていただいて、目に見える達成感のあるものを生み出すということができる契機となるのが20周年とか周年の強みだと思う。今ちょうど全戸配布や回覧を行い委員の募集も実施している。何らかの形になって残るので、達成感があるものが適しているのではないかと私は思っているが、集まった委員の中で皆さんにまずは自由に考えていただきたい。

I委員からいただいたお話で、今回防災備蓄品の定期点検だとか、避難所運営協力防災士制度を今回取り入れさせてもらおう。防災士会には大変厄介になるが、引き続きぜひお願い申し上げたい。こういった活動を実施できることが防災士会の魅力や会の活性化に必ず繋がると私たちは考えており、防災士会を大きくしていく契機にしていれば大変ありがたく思う。防災士の資格を取っても何か活動をしなないとどんどん忘れていってしまうため、継続的な動機づけという意味からも、ぜひ来年度事業も大いに形にさせていただきたく思う。

J委員のお話で、まず医療機関と介護施設含めて、感染対策の資材の補助については来年度も継続する方針をまとめた。こういった補助については市の方でしっかり対応していくので、ご安心をいただければと思う。

診療報酬が決まっている中で、物価や光熱費の高騰があると、現場を非常に圧迫するという事は重々承知をしている。私自身、今年度すでにその現象が1年続いってきたため、政府が診療報酬や介護報酬に対して何らかの手当を出すのではと考えていたものの、ここに至るまで何の議論も出てきていないというのは異常だと思っている。市長会等も通じて今も言っているのだが、今より強く言わないとこれは動かないだろうと思っており、国への働きかけをまず強く実行していきたい。ただ、これに並行して国が補助や手当を出さない間に手をこまねいているわけにいかないため、市独自の補助として国から地方創生の臨時交付金物価高騰対策の交付金の一部を診療報酬に充てることを検討していきたい。国からはLPガスの話ばかりが出ており、もちろんLPガスには現在手当が何も当たらないような状況であるため飛騨市の場合全世帯に関わる重要事項であるが、医療福祉分野といったエッセンシャルサービスへ手だても同等に重要。限られた財源の中でどういうバランスでどの分野に支援をするのかについては、この後議論させていただいて、しかるべきタイミングで方針出していきたいと思っておりますのでお願いいたします。

学校の暖房の話は、とりあえず今は暑さ対策の冷房で頭がいっぱいだったため、暖房の話は考えていなかったのが本音。まずは冷房を仕上げてから暖房のことを考え

ていきたい。それから換気の話もちよっと触れられたが、換気はある程度手法が確立されてきているので、新型コロナが5類になっても一定の換気や感染対策は継続されていくことが想定される。学校現場には、今までの経験を生かすような形で対応していただきたいと思う。

K委員のお話で、事業承継の話はC委員の時に話した通りだが、廃業になってからというよりは、大体20年前、事業所によっては30年前に今の状況が見えていたように思える。先程も申し上げたが、この経験を生かせるかというところだと思う。ただ、おっしゃったように会議所と商工会との連携は、特に現場を存じていて繋がりが深い分鍵になるところだと思うため、会議所や商工会ともよく話し合いながら取り組んでいきたいと考えている。事業承継は3年前から、市政の分野のテーマにも掲げて相談体制も充実させてきたところだが、少し違う方向性も考えつつ、何が出来るのか考えていきたい。

20周年の話についても、H委員の時にもお答えした通りだが、おっしゃるように式典を表彰だけで終わらせるということは考えておらず、取組の実施と取組までの過程も含めて考えていくことをやって「式典」という形にしたい。15周年の時に、「未来づくり賞」という賞を地道にやっている方や、未来に夢が持てるようなまちづくり活動を始めている方を表彰したいという目的で作った。特に子どもたちの取組や地道にやっている方々については、引き続きよく目を向けてそういった方々が表彰されるように、よく目を配れるようにしていきたい。

最後にA委員からのお話で補助制度のお話があったが、実は今すでに「暮らしに役立つ補助制度」という冊子を作っており、全部で110本ぐらい補助事業が掲載された市の補助制度をまとめた冊子を作って配布している。冊子が分厚いので回覧の格好で皆さんの手元に回っていると思うが、こういったものの活用の方法を考えて、回覧するだけではなく中核になるような方々によく見てもらい知ってもらうことも大事だと、お話を聞いていて思った。今は冊子が市のそれぞれのところへ回覧されるが、今話を聞いていて補助金コンシェルジュみたいな方がいてもいいのではと思った。全部答えられなくても、この補助金ならここに聞くといいよ、これだったらここに聞くといいよ、と話を聞きながら適切な補助金を教えてくれる方が区長以外でどなたかやっていただけるといいのではないか。それこそ市職員OB、公務員OBの方にやっていただければよりスムーズにできるかなと思った。冊子を配って回覧して終わりということではなく、もう当たり前インターネットでも見られるようにはなっているが、もう一つ踏み込んだ周知方法を考えてみたいと思う。

躍動感、ダイナミズムの話をされたが、実は私も同じように感じている。祭りへの対応を見ても確かに今一つな部分があって、コロナ流行前だと面倒くさいし大変だけどとりあえず祭りをやろうと言って取り組んできたが、コロナが流行して祭りができないことにより、やらない癖がついてしまったことは間違いない。おそらく多少なりとも今後は世の中が動き始めて様々な規制が緩和していくと思うし、元

に戻っていく部分はかなりあると思うが、他方でこのまま終わっていく取組も恐らく大量に出てくるのではと考えている。何が原因で終わっていくのかを見極めて、終わるにしても新しいいろんな活動が起こってくような後押しをしていったり、逆に時代に合った活動のあり方を考えていただく契機として考えていただいたり、ある意味チャンスだという捉え方で、どのように呼びかけていくか、また、区長方にもどのような意識づけをさせていただけるような勉強会もしくは意見交換会のようなものを何か考えられるのではないかと思う。すぐ答えが出るものではないが、またいろいろと考えてみたい。

【沖畑教育長】 先ほどのF委員からの質問の中で、不登校の子どもたちへの体験をより充実させてほしいという意見があったが、私もそうしたいと思っている。子どもたち一人一人の好きをもっと追求・探求できるような場を作りたいと考えている。現在、それぞれの学校では以前生徒一斉で行っていた総合的な学習の時間を、今それぞれ自身の興味関心や探求したい課題、また、これらを探求・解決する時間をかなり設けることによりかなり充実したものになっている。これを更に突き進めていきたいと思う。今後中学生の部活動は地域クラブへと移行するが、昔からあるようなスポーツとか文化の部活動のみならず、例えばこれまで学校というくくりではなかなか難しかったような歴史探求クラブや理科クラブなど、指導者や受け皿ができていれば色々な活動ができると思う。また、まちづくり活動として町の中の大人と一緒に何かの活動を実施するなど色々なクラブを作りたいという方向で、地域クラブの方も進めている状況。色々な場で子どもたちが、自分の好きなことについて学べるようなクラブにしていきたい。ぜひ今日審議会に参加されている皆さんも企業の皆さんもご協力いただき、一緒になって指導者へ協力していただくとか、お店の中での学びもご提供いただくなど、色々な方、事業者と連携しながら作り上げていきたいと思っております。外部機関や青少年交流の家でも以前から色々なプログラムを作ってくださっているため、更に連携を深めていきたいと思う。プログラミングの勉強などは、先ほど申したような地域クラブだとか、探求の中で学びたい子どもたちが学べるような環境を、新しく作っていかねばならないと考えている。

2点目のスポーツ学童について、神岡と古川で実施回数が違うということだが、理由の1つとして、神岡が先にこの事業をはじめており、年度として実績があるため神岡が落ち着いてきている。2つ目の理由は参加者の数で、古川は参加者がかなり多く、受け皿となっている事業主体の総合型スポーツクラブのチャレンジクラブで、それだけ多くの子どもたちが回数的に毎回やっていけるかという問題がある。先日見学しに行ってきたが、古川トレーニングセンターの体育館いっぱい子どもたちがいた。

教育委員に高校のOBを加えてはどうだというお話だったが、もちろん高校の先生方にも参加していただくことは全く問題ではない。教育長を含めて定員5名と規定があるため、4町に1人ずつ教育委員がいる方が、それぞれの地域の課題や子ども

たちの様子について詳しく見たり共有できたりということがあるため、現在の構成にしている。また、教育委員の要件として、18歳までの子どもを持つ保護者を参画させることに加えて、教育長の職務代理者を1人設定する必要があり、職務代理者は学校教育に詳しい方、もしくは、それから社会教育に今もう自分も一緒になってやって頑張っていたでいて詳しく知見のある方をお願いしているところである。

J先生のお話につきまして、市長が申し上げた通りであり、ストーブについては私自身も以前から気になっており、教育委員会も分かっていること。しかし、現状手間はかかるがストーブが稼働して暖は取れている状況であるため、冷房の優先度を上と見て取り組んでいる。換気につきましては、CO2検知器を教室全てに配置したため、今後これも使いながら気流の流れなどを見て対応していきたい。

【横山部長】

D委員の水道の破損についての取り組みに対して回答する。毎年、飛騨地区は冬季の低温による破裂が発生しているため、冬になる前に広報等で対策を周知している。特に、今年は10年に1度クラスの寒さが予想されると知らせを受けたこともあり、その期間は同報無線等で重点的に注意喚起もしていた。それでもやはり、ここ近年、冬でも暖かい年が多かったということもあったからと考えられるが、対策が十分できていなかった家庭もあり、例年よりも凍結による破損が多く発生した。その話は水道業者さんの方からも状況を伺い、市の方でも配水流量や本管の流量は常に監視していることから、市で分かる部分について調査を実施し、わかったところについてはお知らせをした箇所もある。また、毎月の水道料の検針を実施し、検針値で前月よりも明らかに異常が出ている場合には、検針員さんから検針の付票にお知らせ表をつけて通知することや、水道課の方へ異常と疑われるような情報を共有させていただくことになっているため、個別に漏水の疑いがある家庭へお知らせすることもできた。今はかなり落ち着いていて、異常が判明した部分については対応できたと思うが、来年度以降も暖冬と言われて対策をしていないと急に寒波が来たときに凍結してしまうという恐れがあるため、そういった事態にならないよう広報等も徹底したいと思う

【森田部長】

F委員のご自宅家の前のアスファルトの件だが、恐らく舗装の修繕というのは2種類ある。今ある舗装の上にかぶせるやり方と、カッターを入れて一回全部撤去して、もう一回打ち直すっていうやり方があり、今回は程度を確認して前者の修繕をしたと推測される。ただ、上にかぶせると、どうしてもその部分だけ盛り上がってしまうので、思うように水の流れが作れない状況になり、今回のような状態になってしまったと思う。一度現場を見させていただき、状況に応じてもう一度修繕対応をしたいと考えている。

【会長】

高校での探求学習が始まり、岐阜県の方針として各学校で独自で実施するように言われているため、現場の先生方だけでは非常に苦労されている。本来なら、県の教

育委員会がもう少ししっかりと指導したり、指導するための体制を組んだりしていただきたいというのが本音。そんな中でも、NPO法人カタリバさんが実施しているマイプロジェクトというものが、全国的に探求学習を支援することになっており、今年で言うと全国で7万1000人の生徒さんがマイプロジェクトに取り組み、マイプロの大会にも5000人がエントリーをされているぐらい。岐阜県でも今年度から岐阜県サミットという企画を独自で開催をしたが、参加する学校がどうしても偏っているため、飛騨神岡高校や吉城高校に参加していただくような導線ができるといいなと思っている。岐阜県サミットで、とても素敵な生徒さんの発表が多く、自分たちでやりたいことを考えて進めていくということは教育的に非常にいい取組であるため、岐阜県サミットを含めてこういった取組に飛騨市内の高校生もぜひ参加いただけるとよいと思う。

2つ目は、先ほどの学校総務の話でも出てきたが、岐阜県は森林環境税の基金を積んでおり、薪ストーブの補助が出る。このところ、公共施設の薪ストーブの件数があまり伸びておらず、ぜひ活用をご検討いただければと思う。

最後は、防災士資格を取得した方の人材育成について、他の市町村だと育成だけで特に活用は考えていないことが多いが、育成した方々へ活躍の場を提供できれば非常によいと考えている。防災士の方がボランティアのように活動するケースが多く、割とやりがい搾取的な場合が多く見受けられる。そうなってしまうとなかなか続いていかないので、しっかりと事業化をして予算を立てて取り組んでいくようにすべきであり、飛騨市を起点に各市町村や県にも広がっていくとよいと思う。それでは、これで協議事項は以上となる。司会を事務局へお返しする。

6. その他

【森田部長】 机上に飛騨市防災ハンドブックを配布させていただいている。こちらについて、危機管理監よりご報告する。

【高見管理監】 (説明)

【会長】 市担当者と何度も打ち合わせをし、何度も原稿をチェックして今現物ができあがったということで、非常に感慨深く思う。中身には書き込む箇所を多く用意したため、ぜひ活用いただきたい。私と共同でやっているDo it Yourselfさんと開発した「防災力チェックリスト」が最後のページにあり、これをやっていただくと、自分でできていたつもりの防災が意外とできてなかったとわかるようなこともあるかと思う。帰宅後、ご家族と一緒にやっていただけるとありがたい。

【森田部長】 続いて市政世論調査の結果について総合政策課長より説明する。

【田中課長】 (説明)

- 【森田部長】 最後に、来年度の審議会について担当の方から説明する。
- 【土田補佐】 今年度の審議会は本日の会議が最後となる。委員の皆様には、令和2年からの3年間、飛騨市総合政策審議会にご協力いただき感謝を申し上げます。一旦これで任期は終了となる。来年度以降、新たに委員の皆様を選定させていただきご依頼することになると思う。区長様や一部の方には、また引き続きご依頼させていただくことになるかと思うので引き続きよろしくようお願い申し上げます。
- 【森田部長】 引き続きなられる方におかれましては、今後もよろしくようお願い申し上げます。先ほど、飛騨市防災ハンドブックと市政世論調査の概要版について報告をさせていただいたが、この2点について質問などがあれば伺いたい。
- 【C委員】 市長に質問。調査結果報告書について、これはどういう形で外に見せるか。
- 【都竹市長】 今手元にご用意したのは経年比較版であり、毎年の分は全てホームページに上げており、印刷するともっと分厚いものになる。データとして全てホームページに上がっているため、そちらの方でご覧いただける。
- 【C委員】 つまり、会議所でも使うことについても問題はないか。
- 【都竹市長】 そのとおり。細かく見ていただくと、年齢別・地域別によってニーズが違うことが良く分かるかと思う。我々もこのデータはよく参考にしているので、適宜活用いただけるとありがたい。
- 【C委員】 それでは、ぜひ使わせていただくことにする。感謝申し上げます。
- 【森田部長】 質問がないようなので、以上で質疑応答を終えることとする。

7. 閉会【湯之下副市長】

令和4年度第4回ということで、最後の審議会に委員皆様のご出席を賜り、貴重なご意見をいただくことができた。感謝を申し上げます。来年度予算の中にも盛り込んだが、持続可能な飛騨市役所づくりの中に、職員の確保と育成の強化がある。研修等についても、市長から与えられた長年の課題であったが、新規で始めるものもある。一番思うことは、職員が市民の皆様と交流し関わりながら仕事を一緒にするなど、いろいろなことを進めていく中で、大きな学びがありやりがいを感じる職員が、年数を重ねるごとで増えていくと想定されること。そういった意味で、皆様方におかれましては大変お忙しい中、職員がお邪魔することがあると思うが、持続可能な飛騨市のために、是非ともまたご協力いただきたく思う。またお気づきのことがありましたら、市の方に提言やご意見を頂戴いただければ大変ありがたいと思っている。

それでは、本日の会議を終了する。